

令和 5年10月20日

業務完了報告書

鳴門教育大学教員教育国際協力センター

田村 和之・日下 智志

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 2023 年度 国別研修パプアニューギニア「初等理数科教員養成校強化プロジェクト」

(英文) Country-Focused “Training in Japan for the Project for Strengthening Primary Teacher Pre-service Education in Mathematics and Science (JFY2023)”

(2) 研修期間 令和 5年10月16日～令和 5年10月19日

(3) 研修員数 8人

2. 研修内容(添付)

(1) 日程表

3. 案件目標(アウトカム)と単元目標(アウトプット)の達成度

(1) 案件目標(アウトカム)

・日本の教育全般(ICT の普及状況やジェンター配慮を含む)についての講義や日本の大学における教員養成課程の内容(カリキュラム)、及び公立学校(小中学校)における理数科授業や施設の見学を通じ、SBC 及び QUIS-ME 教科書によりパプアニューギニア(以下「PNG」という)政府が実現しようとしている理数科における子どもの学びに関する理解を深める。

指標: 研修員が本邦研修終了時に発表するアクションプランにより理解度が一定レベルに達成しているか確認される。

達成度: 本研修最後のアクションプランで発表された内容に照らし、研修員は日本で行われている教員養成や学校教育について理解したことが確認できた。よって、目標を達成できたものと理解する。

(2) 単元目標(アウトプット)

単元目標①: 日本の教育及び教員養成課程の概要と特徴を理解する。

指標：研修員が受けた日本の教育や教員養成に関する講義をしっかり聞いているか、またその時の質応答の内容について、4 段階評価が B（やや優れている）以上。

単元目標②：日本の小中学校の現場を理解する。

指標：研修員が研修中に訪問した佐那河内小中学校においてしっかりと見学を行っているか、またその時の質疑応答について 4 段階評価が B（やや優れている）以上。